

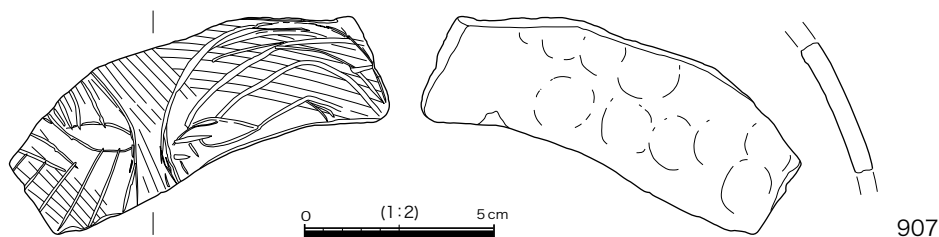
III. 刊行報告書抄録

第168集 姫下遺跡

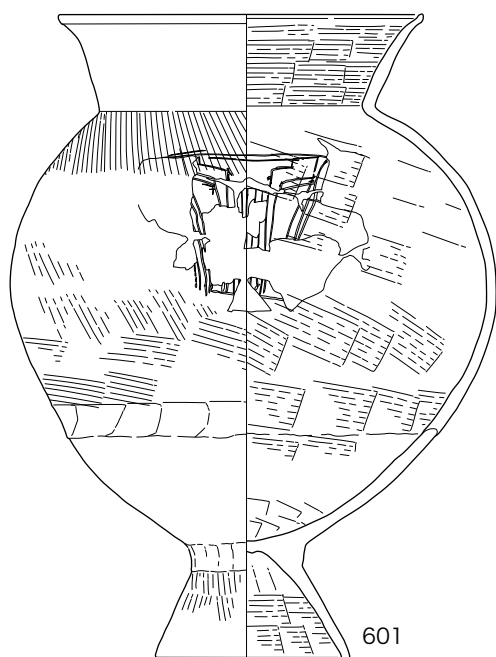
姫下遺跡は碧海台地縁辺に沿って流れる鹿乗川の東岸の標高約7mの沖積地に立地し、西岸の台地上には、桜井古墳群中でも最大規模の前方後円墳である姫小川古墳をはじめ多くの古墳が築造される。調査は鹿乗川改良工事に伴う事前調査として、平成17・18年度の二カ年で、合計7420㎡の面積で行われた。

1. 条痕文土器を含む土坑や、弥生時代中期後葉の竪穴建物・竪穴状遺構7基・土坑1基が検出されている。
2. 古墳時代前期から室町時代前半の竪穴建物・竪穴状遺構272基、掘立柱建物1棟、井戸、溝、土坑が検出され、特に幅の広い周溝状遺構をもつ竪穴建物が注目される。
3. 居住域の南端では河道が検出された。この河道は弥生時代以前より河道化しており、古墳時代前期になり幅30～40mを測る大きさとなり、河道に直交するように杭列が設けられている。河道内より多量の土器・土製品、木製品が出土している。
4. 遺物の時期は廻間Ⅲ式期から松河戸Ⅰ式期に属し、土器では廻間様式土器群に、丸底甕や屈折脚高坏をもった布留系土器群が加わる。また線刻土器も5点出土し、人面文1点・撥状文1点が含まれる。
5. 木製品では大型掘立柱建物の建築部材や掘削具、容器、案・椅子、紡織具、分割材・丸太・杭など多様な器種が出土している。

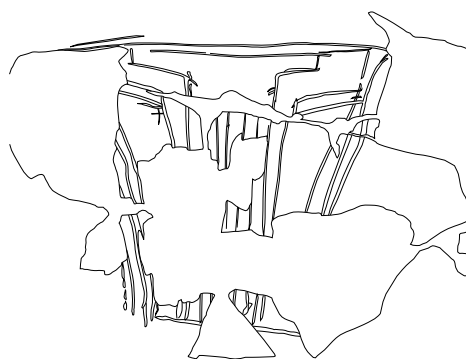
(宮腰健司)



907



601



線刻土器(人面文907・パチ状文601)

報告書抄録

ふりがな	ひめした							
書名	姫下遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第168集							
編著者名	宮腰健司・鈴木正貴・樋上昇・永井邦仁・株式会社パレオ・ラボ(伊藤茂・丹生越子・廣田正史・瀬谷薫 小林紘一・山形秀樹・Zaur Lomtadidze・Ineza Jorjoliani・黒沼保子・米田恭子)							
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24							
発行年	西暦2012年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ　　ド		北　緯 ° ' "	東　経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひめした 姫下	あんじょうしひめ おがわちようひめした 安城市姫小川 町姫下	23213	540121	34°54'52"	137°05'49"	2005年10月 ～2006年3月	3470㎡	鹿乗川河 川改良工 事
						2006年10月 ～2007年3月	3950㎡	
所収遺跡名	種　別	主な時代		主な遺構		主　な　遺　物		特　記　事　項
姫下遺跡	集落	弥生時代 古墳時代 平安時代 鎌倉時代 室町時代 江戸時代		竪穴建物 掘立柱建物 土坑 溝 井戸 河川		弥生土器 土師器 須恵器・灰釉陶器 土製品 木製品 石製品		線刻(人面文1)土器5点 墨書土器7点 案2点・椅子3点
文書番号	発掘届出 (17埋セ第49号・2005.9.20) (18埋セ第47号・2006.9.15) 通知 (17教生第1349号・2005.10.20) (18教生第1672号・2006.10.30) 終了届・保管証・発見届(17埋セ第133号・2006.3.29) (18埋セ第99号・2007.3.14) 監査結果通知(18教生第536号・2006.6.14) (19教生第459号・2007.5.23)							
要　約	本遺跡は鹿乗川左岸の標高約7mを測る、自然堤防に立地する。弥生時代中期後葉の竪穴建物・竪穴状遺構7基、土坑1、古墳時代前期と平安時代～室町時代前半にかけての竪穴建物・竪穴状遺構が272基、井戸1基や土器廃棄土坑も検出されている。 また、弥生時代から古墳時代にかけての河道が検出され、古墳時代前期の大型掘立柱建物の建築部材や掘削具、案・椅子、紡織具、分割材・丸太・杭など多量の木製品が出土している。							

第169集 塚原1号窯跡・若宮1号墳・山口堰堤3号墳

塚原1号窯跡の調査では、塚原1号窯跡・塚原3号窯跡、および灰原・作業空間と、窯業生産に関わる遺構群をも包括して調査を行うことができた。当窯跡は古瀬戸前Ⅱ期・山茶碗第7型式を主体とする13世紀の窯跡である。整理・報告では、出土資料から遺跡形成の様相を復元するために、全出土遺物を対象として、分類・点数集計・重量計測を含む、統計的処理を行なった。その結果、塚原1号窯跡および塚原3号窯跡とでは、山茶碗類小皿など生産の様相について若干様相が異なること、1号窯跡の灰原において古瀬戸類および山茶碗類の廃棄様相が異なること、作業空間としての整地部分における出土遺物の特徴について、明らかにすることができた。特に、出土遺物を詳細に検討した結果、窯構造物への転用や窯道具への転用と、さまざまな場面で二次的利用が行なわれている事例を多く確認できた。

若宮1号墳は丘陵斜面に築造された径10m程度の円墳で、複室系擬似両袖式の横穴式石室を埋葬施設とする。古墳は6世紀後葉から7世紀前葉頃に築造されたと推測される。

山口堰堤3号墳は径14～15mの円墳で、擬似両袖式の横穴式石室を埋葬施設とする。古墳は6世紀後葉に築造されたと推測される。範囲確認調査の結果、古墳は現地に保存されることとなった。

(川添和暁・早野浩二)

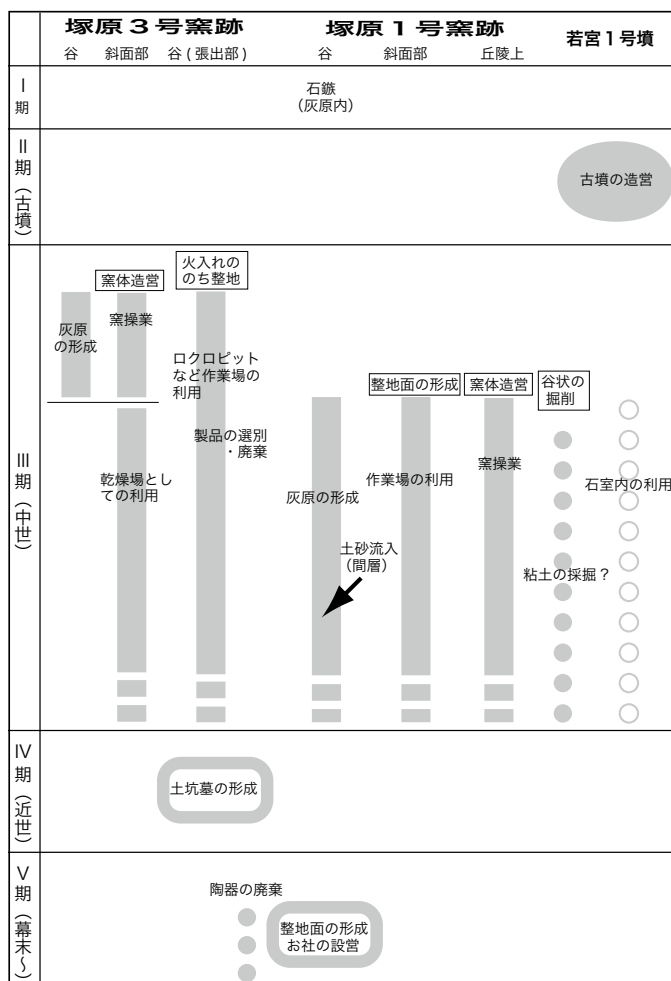


図1 塚原1号窯跡など変遷図

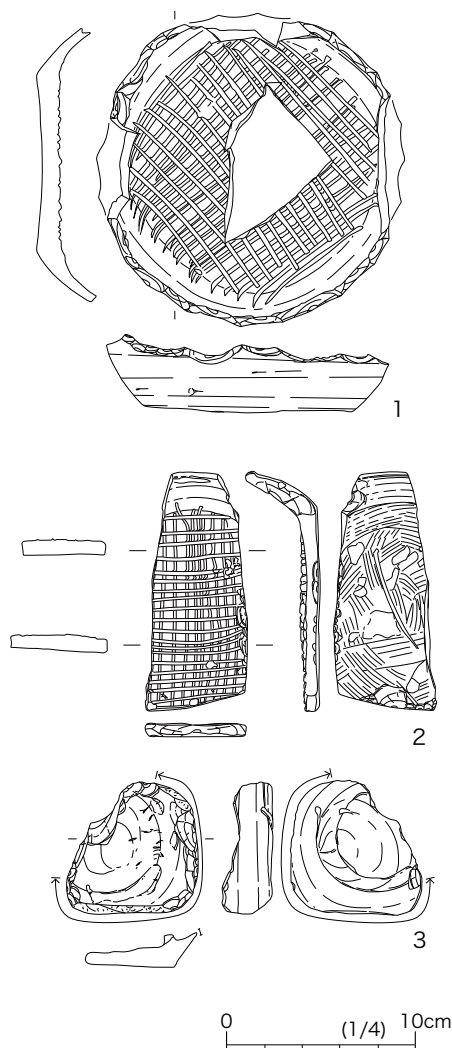


図2 塚原1号窯跡出土遺物(1:4)

報告書抄録

ふりがな	つかはらいちごうかまあと わかみやいちごうふん やまぐちえんていさんごうふん
書名	塚原1号窯跡 若宮1号墳 山口堰堤3号墳
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第169集
編著者名	川添和暁・宇佐見守・藤根 久・小林克也・伊藤茂・尾崎大真・丹生越子・廣田正史・小林紘一 Zaur Lomtadize・Ineza Jorjoliani 早野浩二・黒沼保子
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24
発行年月日	西暦2012年3月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° . ' . "	東経 ° . ' . "	調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
つかはらいちごうかまあと 塚原1号窯跡	せとしわかみやちよう 瀬戸市若宮町	23204	03284	35度20分38秒	137度11分17秒	200608～ 200703	1,240㎡	国道248号線 道路改良工事に伴う事前 調査
わかみやいちごうふん 若宮1号墳	せとしわかみやちよう 瀬戸市若宮町	23204	03872	35度20分43秒	137度11分20秒	200608～ 200703	270㎡	
やまぐちえんていさんごうふん 山口堰堤3号墳	せとしわかみやちよう 瀬戸市若宮町	23204	02108	35度20分28秒	137度11分16秒	200608	50㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
塚原1号窯跡	窯業遺跡	中世	窯体2・整地層(面)・灰原	古瀬戸類陶器片・山茶碗類陶器片	窯体1基は調査中に発見。 (塚原3号窯跡)
		近世	土坑墓	播鉢など近世陶器	
若宮1号墳	古墳	古墳	横穴式石室・列石	須恵器	横穴式石室は複室系擬似両袖式石室で羨門までが遺存する。
山口堰堤3号墳	古墳	古墳	横穴式石室	須恵器	範囲確認調査の結果、古墳は現地保存された。

文書番号	発掘届出(18埋セ第33号・18.8.7／18埋セ第33号・18.8.7／17埋セ第122号・18.3.16) 通知(18教生第1274号・18.9.25／18教生第1274号・18.9.25／17教生第2457号・18.3.31) 終了届(18埋セ110号・19.3.27／18埋セ第111号・19.3.27／18埋セ第38号・18.8.22) 保管証・発見届(18埋セ110号・19.3.27／18埋セ第111号・19.3.27／18埋セ第38号・18.8.22) 鑑査結果通知(19教生第465号19.5.23／19教生第464号19.5.23／18教生第1304号・18.9.25)
------	--

要約 塚原1号窯跡の調査では、13世紀代の窯体・作業場・灰原を全面調査できた。特に1号窯の残存状態は良好で、天井の残存や焼台痕の確認など、窯体の構造を考える上で重要な調査事例となった。また、調査中に塚原3号窯跡も新たに見つかり、1号窯跡との関係性を詳細に検討することができた。報告では、遺跡形成過程の基礎データを提示するとともに、製品としての陶器の生産から廃棄にいたるまでの様相を検討することができた。

若宮1号墳は径10m程度の円墳で、横穴式石室を埋葬施設とする。古墳は6世紀後葉から7世紀前葉頃に築造されたと推測される。

山口堰堤3号墳は径14～15mの円墳で、横穴式石室を埋葬施設とする。古墳は6世紀後葉に築造されたと推測される。古墳は現地保存。

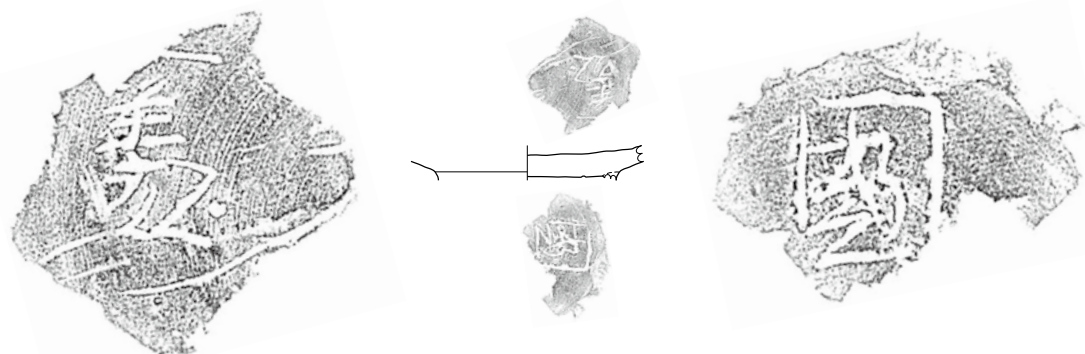
第171集 長野北浦遺跡・塔の越遺跡

長野北浦遺跡・塔の越遺跡は稲沢市長野・塔の越・治郎丸に所在し、稲沢市の東部、三宅川左岸の自然堤防状に立地する。

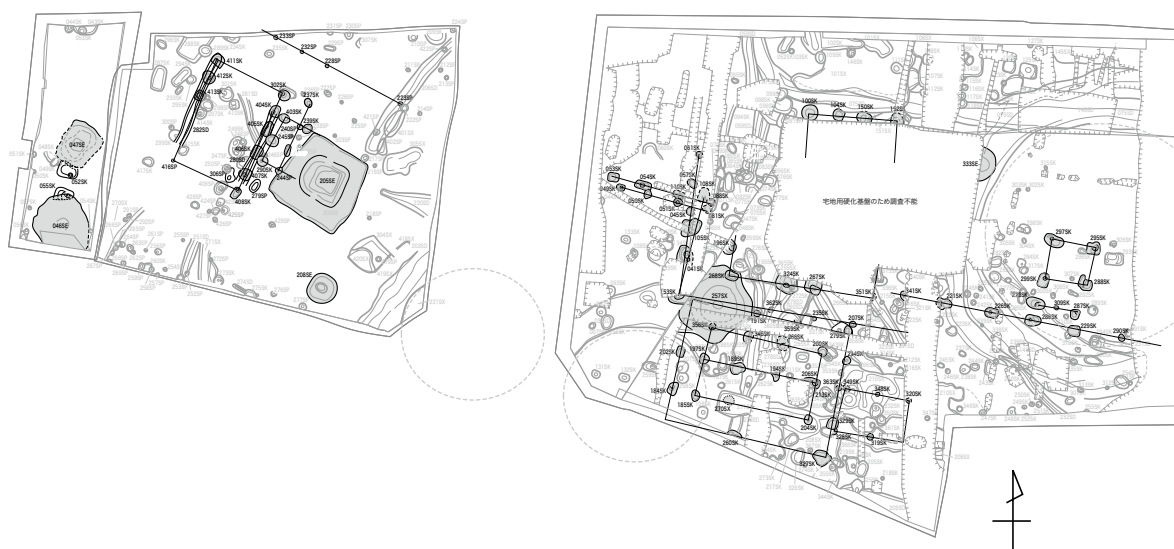
発掘調査は、都市計画道路稲沢西春線の建設に伴う事前調査として、平成 19 年から平成 22 年まで実施された。整理と報告書作成作業は平成 22 年度・23 年度に、報告書刊行は平成 23 年度に行った。

長野北浦遺跡・塔の越遺跡の調査によって、古代に関しては南北方向に大溝が掘削されてエリアを画し、そのなかに竪穴建物群や掘立柱建物群が散在している様子を把握することができた。興味深いのは、8 世紀代まではそれら建物群が先行して造営された墳墓群とともに一つの景観を構成している点である。4 世紀に始まり 6 世紀まで続く墳墓群の存在は、この地域が濃尾平野における中心地の一つであったことを示すのであり、その西方に尾張国府（衙）が位置していることも無関係ではないだろう。もちろん、古墳時代における集落域の実態は不鮮明ではあるが、三宅川に沿う自然堤防が安定した高度を保ち、居住環境として他に優越していることは確かであり、尾張国府を含めた濃尾平野における古代史像を考える上で重要な資料を提供した。

(石黒立人)



塔の越遺跡 刻書陶器



塔の越遺跡 主要建物群と井戸群

報告書抄録

ふりがな	ながのきたうらいせき・とうのこしいせき
書名	長野北浦遺跡・塔の越遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第171集
編著者名	石黒立人・樋上 昇・永井邦仁・早野浩二・鬼頭 剛・奥野絵美
編集機関	公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802番24 TEL 0567(67)4163
発行年月日	西暦2012年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査 面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ながのきたうらいせき 長野北浦遺跡	あいちけんいなざわし 愛知県稲沢市 ながの 長野	23220	090072	35度 15分 25秒	136度 49分 04秒	2007.4.1 } 2008.3.31 2008.4.1 } 2008.10.31	5,500 1,500	都市計画 道路稲沢 西春線建 設
とうのこしいせき 塔の越遺跡	あいちけんいなざわし 愛知県稲沢市 ながの とうのこし じろまる 長野・塔の越・治郎丸		090009	35度 15分 25秒	136度 48分 57秒	2007.4.1 } 2008.3.31 2008.4.1 } 2009.3.31 2009.5.1 } 2009.8.31 2010.4.1 } 2010.4.28	2,500 6,150 710 90	

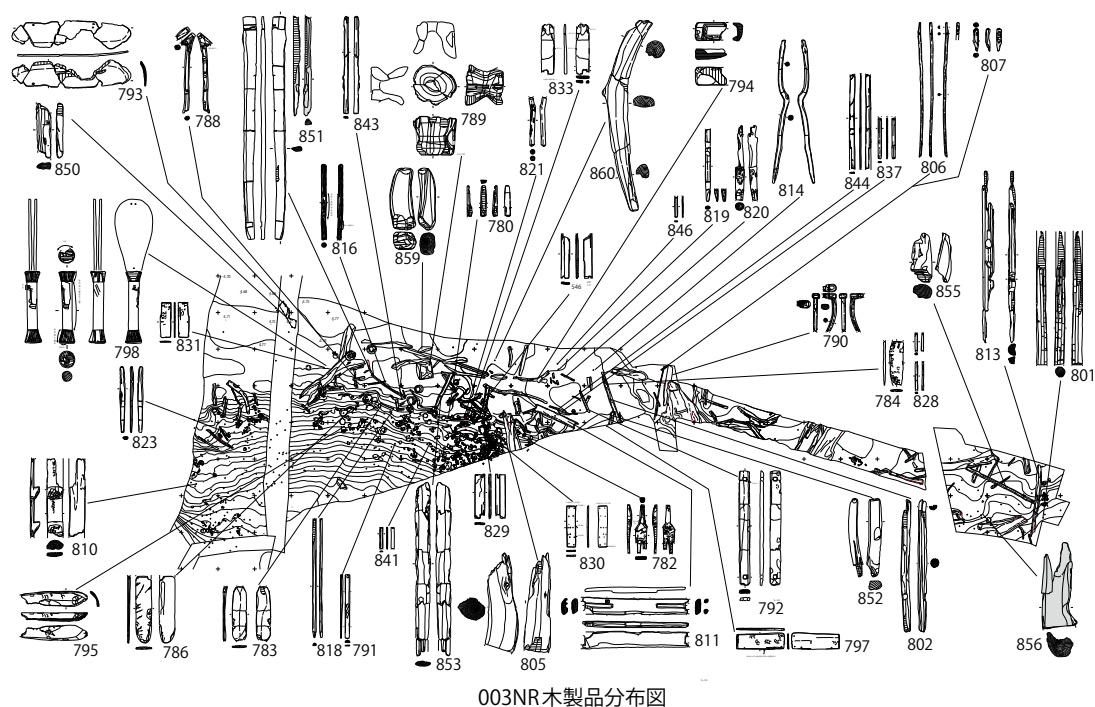
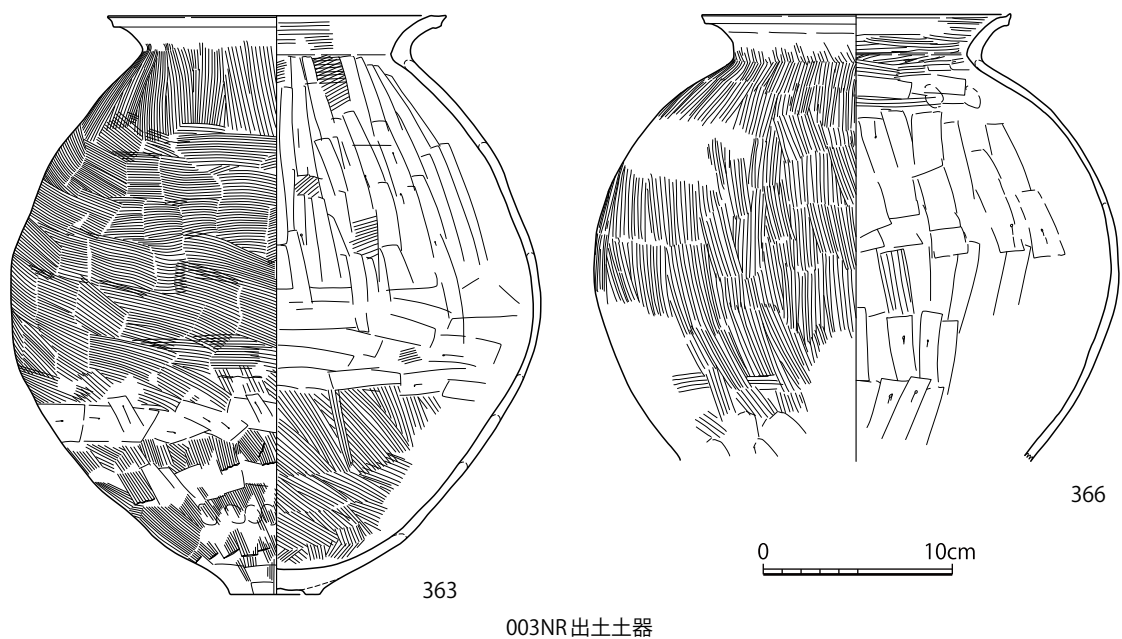
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
長野北浦遺跡	集落	古墳 中世・近世	墳墓・竪穴住居 掘立柱建物・井戸・溝 土坑	土師器 中・近世陶器	
塔の越遺跡	集落	古墳 古代	円墳・方墳 竪穴建物・掘立柱建物 井戸	土師器・須恵器・埴輪 須恵器・灰釉陶器	
		近世	井戸・溝・土坑	近世陶器	

文書番号	発掘届出(18埋セ第101号 2007.3.15)	発掘届出(19埋セ第114号 2008.3.11)	発掘届出(20埋セ第129号 2009.3.26)	発掘届出(21埋セ第129号 2010.3.3)
	通知(18教生第2737号 2007.3.28)	通知(19教生第2941号 2008.3.19)	通知(21教生第21号 2009.4.2)	通知(21教生第2611号 2010.3.23)
	終了届・保管証・発見届(19埋セ第116第号 2008.3.11)	終了届・保管証・発見届(20埋セ第119号 2009.3.13)	終了届・保管証・発見届(21埋セ第60号 2009.9.3)	終了届・保管証・発見届(22埋セ第35号 2010.4.28)
	監査結果通知(19教生第2967号 2008.3.24)	監査結果通知(20教生第3270号 2009.3.30)	監査結果通知(21教生第1555号 2009.10.22)	監査結果通知(22教生第793号 2010.7.8)

要約	長野北浦遺跡・塔の越遺跡の調査によって、古代に関しては南北方向に大溝が掘削されてエリアを画し、そのなかに竪穴建物群や掘立柱建物群が散在している様子を把握することができた。興味深いのは、8世紀代まではそれら建物群が先行して造営された墳墓群とともに一つの景観を構成している点である。4世紀に始まり6世紀まで続く墳墓群の存在は、この地域が濃尾平野における中心地の一つであったことを示すのであり、その西方に尾張国府(衙)が位置していることも無関係ではないだろう。もちろん、古墳時代における集落域の実態は不鮮明ではあるが、三宅川に沿う自然堤防が安定した高度を保ち、居住環境として他に優越していることは確かであり、尾張国府を含めた濃尾平野における古代史像を考える上で重要な資料を提供した。
----	---

第172集 惣作遺跡Ⅱ

安城市木戸町に所在する惣作遺跡は、鹿乗川流域の沖積低地にあり、その自然堤防から後背湿地に立地する。調査の結果、弥生時代～古墳時代前期・奈良時代～平安時代・鎌倉時代以降の3期に大別される遺構や遺物が確認された。調査成果は多岐に及ぶが、弥生時代中期を中心に竪穴建物が繰り返し建て替えられた集落跡と古墳時代前期の自然河道に多量に遺棄された土器と木製品などが注目されるだろう。古墳時代前期の遺物群は水辺の祭祀の存在を思わせる内容を含んでいるともいえる。また、年号や人名が記された習書木簡は古代三河の具体的な歴史を語る上で貴重な資料となっている。（鈴木正貴）



報告書抄録

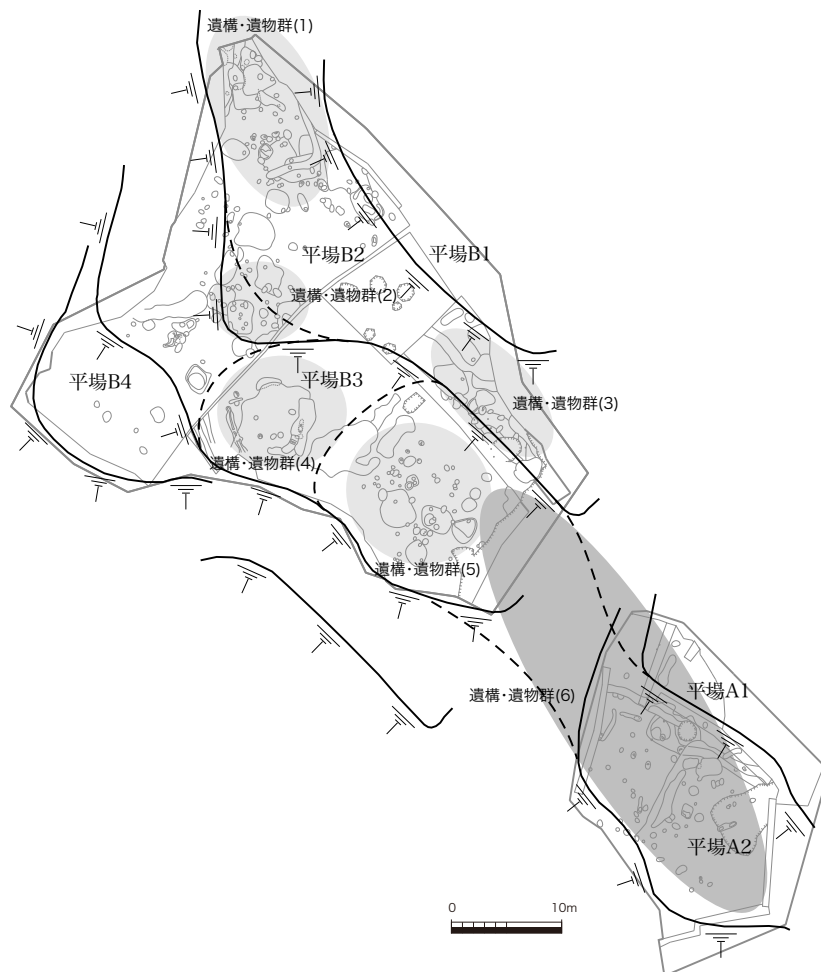
ふりがな		そうさくいせき 2						
書 名		惣作遺跡Ⅱ						
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名		愛知県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号		第172集						
編著者名		鈴木正貴、永井邦仁、樋上昇、川添和暁、鈴木茂、黒沼保子、佐々木由香、バンダリ スタルシャン						
編集機関		公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター						
所在地		〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24						
発行年月日		西暦 2012年 3月 31日					TEL0567(67)4161	
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
そうさくいせき 惣作遺跡	あんじょうし きどちょう 安城市木戸町	23213	540132	34度 53分 60秒	137度 05分 38秒	20080901～ 20091130	2100㎡	鹿乗川河 川改良工 事
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
惣作遺跡	集落	弥生時代～ 古墳時代前期 奈良時代 ～平安時代 鎌倉時代～ 江戸時代		竪穴建物、 自然河道、 土器棺墓など 竪穴建物、 掘立柱建物、 溝、土坑など 掘立柱建物、 溝、水田など		弥生土器、土師器 木製品など 須恵器、土師器 灰釉陶器、木製品 など 山茶碗類、 瀬戸美濃窯産陶器、 木製品など		弥生時代中期から 平安時代の集落 古墳時代前期の 良好な一括資料 と木簡
文書番号	発掘届出(20埋セ第57号・2008.8.19) (21埋セ第41号・2009.7.15) 通知(20教生第1360号・2008.9.9) (21教生第1033号・2009.8.6) 終了届・保管証・発見届(20埋セ第94号・2009.12.24) (21埋セ第78号・2009.10.28)							
要約	今回の調査で確認された遺構や遺物は3期に大別される。弥生時代中期から古墳時代前期では、竪穴建物を中心とした集落が展開したとみられ、古墳時代前期の自然流路から多量の土器と木製品が出土した。奈良時代から平安時代には竪穴建物と掘立柱建物も伴う集落が営まれ、年号と人名が記された木簡も1点出土した。鎌倉時代以降は居住域ではなくなったようで、水田や河道などの土地利用が確認された。 鹿乗川流域遺跡群の南部に所在する本遺跡は、周辺に点在する他の遺跡との関連が目される。							

第176集 柿下遺跡

柿下遺跡は新城市の茶臼山山麓に所在する、中世から近世にかけての集落遺跡である。第二東海自動車道建設工事に伴って、平成20年度に発掘調査を実施した。遺構は、山茶碗が出土する掘立柱建物や竪穴状遺構などが検出されている。

出土遺物の整理作業は、平成22年度に実施した。出土遺物はコンテナ7箱程度で調査面積(2,400㎡)に比してひじょうに少ない点が当該遺跡の特徴のひとつである。また、中世の山茶碗や土師器鍋・皿以外にも、戦国時代から近世にかけての陶磁器・土師器皿や、数点ずつではあるが平安時代の灰釉陶器や縄文土器(押型文土器など)、石器が出土しており、山麓部における土地利用がなされた時期を示すものとして重要な資料を検出することができた。遺物は実測・写真撮影による記録を行ない報告書にそれらを提示した。

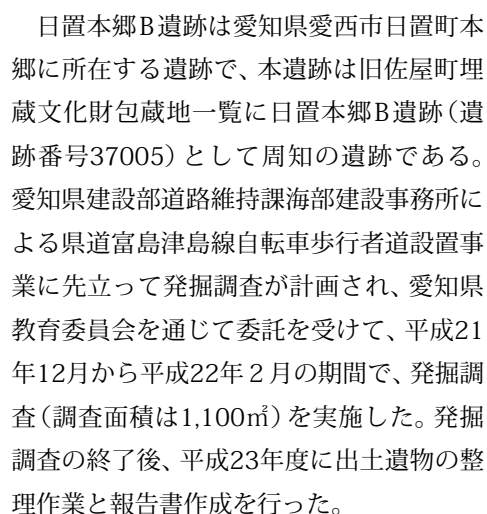
上記の遺物整理作業に加えて、遺構の分布状況についても検討をおこなった。結果、中世段階では山麓斜面を切り開いてできたいくつかの小平場に集落を構築していることが明らかになった。そして、文献史料や地名の考証によってこれらの小集落群が中世荘園の開発に伴うものである可能性を指摘し、周辺も含めて荘園遺跡として考古学情報を統合していくことの必要性を提示した。加えて、このような小集落群で構成される遺跡の範囲確認の方法についても再考が必要であることを述べた。(永井邦仁)



柿下遺跡の中世遺構・遺物群分布

報告書抄録

ふりがな		かぎしたいせき						
書 名		柿下遺跡						
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名		愛知県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号		第176集						
編著者名		永井邦仁、鬼頭剛、長田友也						
編集機関		公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター						
所在地		〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567(67)4161						
発行年月日		西暦 2012年 3月 31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
かぎしたいせき 柿下遺跡	あいちけん しんしろし 愛知県新城市 うえの 上野	23207	760037	34度 55分 28秒	137度 30分 49秒	2008.12.01～ 2009.03.15	2,400㎡	第二東海 自動車道 建設工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
柿下遺跡	集落	縄文時代 ～ 江戸時代	掘立柱建物跡、 竪穴状遺構、 土坑等		土師器(皿・鍋)、 瀬戸美濃窯産陶器、 山茶碗、灰釉陶器、 刀子、石鏃、石斧、 縄文土器		中世前半に造成さ れた小平場群	
文書番号		発掘届出(20埋セ第72号・2008.10.7) 通知(20教生第1741号・2008.10.27) 終了届・保管証・発見届(20埋セ第121号・2009.3.19) 鑑定通知(21教生第316号・2009.4.10)						
要約	本遺跡は、雁峰山系南東麓の茶臼山斜面に形成された、中世～近世の集落遺跡である。その開発は、平安時代末期に遡り、竪穴状遺構や掘立柱建物で構成される。その建物群は約10m四方の小さな範囲にまとまるものがほとんどである。出土遺物は山茶碗と土師器皿が大半を占め、一部灰釉陶器や戦国時代の陶器や土師器鍋がある。また時代は異なるが石鏃や磨製石斧、押型文土器などの縄文時代の遺物も出土していることから、時期の特定できる遺構はあまりないが当該期にも集落として利用されていたと考えられる。なお中世の開発は、荘園の所在を示す地名や神社が付近に存在することから、それに関連するものと考えられる。							



発掘調査と整理事業を行った結果、奈良時代から平安時代前期にかけての遺構（溝1条・土坑10基）と遺物（須恵器・土師器・灰釉陶器・製塩土器・緑釉陶器など）、平安時代末から室町時代にかけての遺構（掘立柱建物1棟・溝4条・井戸1基・土坑25基）と遺物（中世陶器・土師器・青磁・白磁・土錘・瓦など）、江戸時代後期の遺構（溝3条・土坑1基）と遺物（陶磁器・砥石・瓦など）が確認された。

奈良時代から平安時代前期には集落跡の居住域が営まれ、平安時代末から室町時代にかけては、集落跡の居住域と墓域が推定された。そして、遺構・出土遺物の分布状況から、奈良時代から室町時代にかけての集落跡が、江戸時代後期の集落跡に比べて、自然地形の起伏による影響をより強く受けて形成されていた状況がみられた。

(陰山誠一)

報告書抄録

ふりがな	へきほんごうビーいせき
書名	日置本郷B遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第177集
編著者名	石田泰弘・蔭山誠一・鬼頭剛・黒沼保子・中村健太郎・宮腰健司
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL 0567-67-4163
発行年月日	西暦2012年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査 面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へきほんごう 日置本郷 ビーいせき B遺跡	あいちけんあいさいし 愛知県愛西市 へきまちはんごう 日置町本郷	232327	37005	35度 9分 50秒	136度 43分 4秒	2010.12 ～ 2011.2	1,100	県道富島津 島線自転車 歩行者道設 置

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
日置八幡宮 遺跡	集落跡	奈良時代・ 平安時代 鎌倉時代・ 室町時代 江戸時代	溝1条・土坑10基 掘立柱建物1棟・ 溝4条井戸1基・ 土坑25基 溝3条・土坑1基	須恵器・灰釉陶器・土師器 ・製塩土器 山茶碗・小皿・青磁・白磁・ 土師器・土錘・古瀬戸陶器・瓦・ 砥石・井戸組み板 陶磁器・土師器・砥石	古代から中世にかけ ての集落跡

文書番号	発掘届出(21埋セ第77号、平成21年10月22日付) 通知(21教生第1689号、平成21年11月12日付) 終了届・発見届・保管証(21埋セ第118号、平成22年3月1日付) 監査結果通知(21教生第2719号、平成22年3月29日付)
------	---

要約	奈良時代から平安時代前期にかけての遺構と遺物、平安時代末から室町時代にかけての遺構と遺物、江戸時代後期の遺構と遺物が確認され、奈良時代から平安時代前期には集落跡の居住域が営まれ、平安時代末から室町時代にかけては、集落跡の居住域と墓域が推定された。そして、遺構・出土遺物の分布状況から、奈良時代から室町時代にかけての集落跡が、江戸時代後期の集落跡に比べて、自然地形の起伏による影響をより強く受けて形成されていた状況がみられた。
----	--

